

# 経営課題としてのがん対策

## がん社会 を診る

中川 恵一

「健康経営」は経済産業省のホームページで以下のように説明されています。

「従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらす、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。健康経営は、日本再興戦略、未来投資戦略に位置づけられた『国民の健康寿命の延伸』に

関する取り組みの一つです」  
同省は2014年度から上場企業を対象に「健康経営銘柄」の選定を始めました。最新の「健康経営銘柄2024」では26業種から52社が選ばれています。  
16年度からは「健康経営優良法人認定制度」も設けています。大規模法人部門の上位層には「ホワイト500」、中小規模法人部門の上位層には「プライト500」の冠も付加しています。

24年度の認定申請の締め切りが間近に迫っています。読者のなかにも、申請に関わっている方も多はずです。  
これまでの申請書は、がんに関する質問項目が限られていました。そこで5月に経済産業省のヘルスケア産業課を訪問し、企業におけるがん対策の重要性を説明しました。7月には同省内でがんセミナーも開催しました。今回の申請書では、がんに関する質問項目がこれまで以上に増えています。

ていきます。  
この連載でも書いてきたことですが、がんは老化といえる病気です。男性が55歳までになんになる確率は5%にもなりません。65歳までだと13%、70歳では21%を超えます。定年が延長されれば、働くがん患者が増えるわけです。  
乳がんと子宮頸(けい)がんは、老化とは別の要因で若いころから増えるため、50代半ばまでは女性の方が男性より発がんリスクが高くなります。会社員のがんが女性に多い理由です。女性の就労と定年の延長によって、会社員がん患者が増えることになりました。「がん社会」の到来です。

一方、厚生労働省は「がん対策推進企業アクション」を進めています。企業でのがん対策を推進するための国家プロジェクトです。16年目のロングラン事業で、私が議長を務めてきました。

今後、会社でのがん対策は重要な「経営課題」となります。健康経営という観点でも、がん対策が重要な指標となるでしょう。

健康経営は、日本再興戦略、未来投資戦略に位置づけられた『国民の健康寿命の延伸』に

会社員の死因の約半数が、がんによるものですが、その比率は今後さらに大きくなっ

あなたの会社は「がん対策企業アクション」に参加していますか？  
(東京大学特任教授)



イラスト 中村 久美